

豊かな国々が貧しい国々を搾取している？

本の紹介

2004年、ジョン・パーキンス著「エコノミック・ヒットマン」は債務の原因の一つを初めて明らかにした。エコノミック・ヒットマンとは経済の殺し屋の意味だ。パーキンス氏はそのヒットマンの一人だった。豊かな国々は貧しい国々にお金を（豊かな国々から）沢山借りる事を勧めた。貧しい国々はお金を沢山豊かな国々から借りたが返済できなくなった。返済の代わりに（貧しい国々の）経済構造を変えて貰うと豊かな国々が命じた。これは構造調整プログラムのことだ。又返済できない事を利用して貧しい国々に国連での支援、軍事基地、地下資源などを手に入れることができた。しかしパーキンス氏によれば貸した国々は借りた国々は返済できない事が貸す前から分かっていた。債務を造って貧しい国々を支配する計画だった。わざと債務を造った。

パーキンス氏の告白の後、他のヒットマンも告白している。A Game As Old As Empire (スティーヴン・ハイヤット主筆) はその一冊だ。この本は豊かな国々の銀行が貧しい国々の政治的リーダーのお金を奪うことに関わっている事も明らかにした。そして、債務は2000年末よりもさらに増えている事を明らかにした。\$3兆を超える。債務返済は年間\$3,700億で援助額を超える。このため帳消しキャンペーンはこれからも続けなければならない。

債務の一つの原因は貧しい国々を搾取する為の陰謀という事は分かっている。「エコノミック・ヒットマン」には日本の事は書いていないがアジア太平洋資料センター（日本での債務帳消しキャンペーンの中心）によれば最も貧しく、最も債務負担が大きいとされている国々40ヶ国にとって、最大の債権国は日本だ。日本の色々な施設はどのぐらい貧しい人々の犠牲において建てられたのだろうか？

私達も貧しい人々を苦しめる事を望んではない。で本当の意味で貧しい人々を助けたいと思えば、また債務問題を解決したいと思えば、先ず豊かな国々は搾取を止めなければならない。

★ エコノミック・ヒットマン パーキンス、J (著) 東洋経済 2007年

★ A GAME AS OLD AS EMPIRE, Steven Hiatt (editor), Berrett-Koehler Publishers, Inc., San Francisco, 2007